新型コロナウイルス感染症 対策検討協議会説明資料

(検証事項説明資料)

- ◎学びの遅れについて
 - ・(資料1) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の影響を 踏まえた学校教育活動等の実施における 『学びの保障』の方向性等について
 - •(資料2) 教科書発行者作成「年間指導計画例」

令和2年(2020年)7月20日

教育委員会

◎検証項目 学びの遅れについて

1 検証の目的

今回の臨時休校により、3月初旬から5月末までの間と、6月の分散登校期間に 起きた授業の遅れを回復する手立てを、どのように講じるかを見出すことを目的と しています。

2 項目別検証結果

(1) 検証項目

休校期間等における授業の遅れの回復について

考察・検証

休校期間及び6月の分散登校における授業の回復の手立てについて

・ 文部科学省通知(資料1)において、学校の授業における学習活動の 重点化に関して、文部科学省と教科書発行者が協力し、各教科等の留意 事項や具体的な活動例等の参考資料を提示することが示されました。そ れを受け、教科書発行者が本年度の実際の授業時数に合わせた各教科等 の年間指導計画例を作成しました。

各学校においては、その年間指導計画を参考にし、各学校の実態に応じて作成した年間指導計画を立て、本年度内で授業内容が終了するように進めています。

・ 年間指導計画例(資料2)に示したように、7月16日現在で、4月から開始した場合よりも、4,5月の休校及び6月の分散登校により削減された小学校47日分、中学校43日分程度の授業の遅れが見られますが、夏休みの短縮による回復や、家庭学習での取組により、本年度内に学習内容が終了する見込みが立っています。

5月14日の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の改定 を踏まえ、感染症対策と子供たちの学びの保障を両立していく上での基本的 な考え方と取組の方向性をまとめました。

> 2 文科初第 2 6 5 号 令和 2 年 5 月 1 5 日

各都道府県教育委員会教育長 各指定都市教育委員会教育長 各 都 道 府 県 知 事 附属学校を置く各国公立大学長 小中高等学校を設置する学校設置会社を 所轄する構造改革特別区域法第12条 第1項の認定を受けた各地方公共団体の長

殿

文部科学省初等中等教育局長 丸 山 洋 司

(印影印刷)

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等 の実施における「学びの保障」の方向性等について(通知)

5月14日、新型インフルエンザ等対策特別措置法(平成24年法律第31号)に基づき、新型コロナウイルス感染症対策本部が開催され、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」(以下「対処方針」という。)の改定が行われました。

今般の対処方針の改定により、これまで全都道府県が緊急事態措置の対象と されていたところ、緊急事態措置を実施すべき区域を北海道、埼玉県、千葉県、 東京都、神奈川県、京都府、大阪府及び兵庫県とする等の変更がありました。

緊急事態措置の対象から外れた地域も含め、学校における感染拡大のリスクがなくなるものではなく、引き続き万全の感染症対策を講じていただく必要がありますが、同時に、社会全体が、長期間にわたり、この<u>新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、子供たちの</u>健やかな学びを保障することとの両立を図っていくことが重要です。

本通知は、<u>学校教育が協働的な学び合いの中で行われる特質を持つことに鑑み、授業時数の確保に努めることは当然のこととして、学校行事等も含めた学校</u>

教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進めていくことが大切であることを踏まえ、<u>感染症対策を講じながら最大限子供たちの健やかな学びを保障</u>することを目指して、取組の方向性を示すものです。

各設置者においては、「新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫について」(令和2年5月1日付け2文科初第222号初等中等教育局長通知)で示したとおり、<u>感染防止対策を徹底したうえで、段階</u>的に教育活動を開始し、学校における教育活動を充実していくことが必要です。

これらを踏まえ、下記のとおり基本的な考え方と取組の方向性をまとめました。各取組に関する詳細については、調整が整ったものから今後随時お知らせしてまいりますので、各学校設置者におかれては、下記の内容を念頭に取組を進めてくださいますようお願いします。

各都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市区町村教育委員会に対し、各指定都市教育委員会におかれては、所管の学校に対し、各都道府県知事及び小中高等学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法(平成14年法律第189号)第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の長におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対し、附属学校を置く各国公立大学長におかれては、その管下の学校に対し、周知くださいますようお願いします。

記

1. 新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえでの「学びの保障」

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動の実施にあたっては、学校・家庭・地域が連携し、あらゆる手段で、子供たちを誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障するという観点に立って対応していくことが大切である。

また、今後も地域の感染状況等により、地域ごとに臨時休業の期間や学校再開の状況等が異なる状況が発生するとともに、一旦収束しても再度感染者が増加する等の事態も想定されることから、<u>柔軟な対応が可能となるよう、ICT</u>環境の整備も含めた準備を進めておくことが必要である。

さらに、学校教育活動においても感染拡大防止のための配慮が求められることから、5月4日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において提言された「新しい生活様式」を踏まえ、学校教育活動の実施に当たり必要な措置を講じることが重要である。

※今後、文部科学省において、「新しい生活様式」を踏まえた、学校における 新型コロナウイルス感染症対策に関するマニュアルを作成し、提供する予定。

なお、学校再開にあたり、医療的ケアが日常的に必要であったり基礎疾患等のある子供たちが感染予防のために欠席する場合や、保護者の意向により感染予防のために欠席する場合における出欠の取扱いについては、「新型コロナ

ウイルス感染症対策のための臨時休業等に伴い学校に登校できない児童生徒の学習指導について」(令和2年4月10日付け2文科初第87号初等中等教育局長通知。以下「学習指導通知」という。)の3(2)に示したとおり、必要な配慮を行うこと。また、臨時休業や分散登校(児童生徒を複数のグループに分けたうえでそれぞれが限られた時間、日において登校する方法)を行っている期間中であっても、虐待を受けている子供をはじめとする要保護児童等、特に配慮を要する子供たちについては登校させたりするなどきめ細かな対応のための工夫を行うこと。

2. 子供たちの「学びの保障」のための教育活動について

新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても、<u>学校においては家庭における学習の支援を最大限行う</u>とともに、<u>感染防止を徹底したうえで分散登校などの可能な限りの工夫を行い、子供たちの「学びの保障」に努めることが必要である。</u>

学校教育は、教師から児童生徒への対面指導、児童生徒同士の関わり合い等を通じて行われるものであり、臨時休業や分散登校の実施により、学校において教育活動を実施する時間が限定される場合であっても、電話や電子メール等も活用し、教師が児童生徒の日々の状況を丁寧に把握し、学習の歩みを止めることのないよう支援することが必要である。また、児童生徒同士がお互いに励まし合いながら成長していけるよう、学校内外で様々な工夫を凝らして協働的な学びを実現していくことが重要である。

子供たちの学びを最大限に保障するためには、各学校において、新型コロナウイルス感染症の影響の度合いに応じて、年度当初に編成した教育課程を見直すことが必要な場合もあると考えられるが、その際には、新学習指導要領の趣旨に則り、以下の基本的な考え方に基づき教育課程を編成し、学校教育活動を実施することが必要である。

- 学習指導要領に規定されている「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)を意識した上で、「何を学ぶか」(指導すべき内容)を明確化し、今般の事態を受けた様々な環境変化を踏まえて「どのように学ぶか」(指導方法)を柔軟に見直すこと。
- その際、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために、各 教科等を通じて「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに 向かう力、人間性等」をバランスよく育成するものとすること。また、「主 体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫・改善を図ること。
- 学校全体として、<u>地域の状況や児童生徒一人一人の状況を丁寧に把握し、</u> <u>教科等横断的な視点で児童生徒の学校生活の充実を図れるよう</u>、教育活動 や時間の配分等を検討するとともに、地域や家庭の協力も得て児童生徒の 学習の効果を最大化できるよう<u>カリキュラム・マネジメントを行うことと</u>

し、各自治体や国がその取組を最大限支援すること。

上に示した基本的な考え方を踏まえて子供たちの学びを保障していくため、 具体的な教育課程編成のための工夫を以下のとおり示すので、各設置者・学校 においては地域や学校、子供たちの実情に応じ、これらを参考に必要な手段を 組み合わせて教育活動を実施いただきたい。

その際、地域や家庭に対しても丁寧に説明を行い、子供たちの「学びの保障」のための取組方針について十分に認識の共有を図ることが重要であること。

(1) 登校日の設定等による学校での指導の充実

学校教育は、教師から児童生徒への対面指導、児童生徒同士の関わり合い等 を通じて行われるものであり、新型コロナウイルス感染症の影響がある中に おいても、その趣旨を踏まえて、感染拡大防止に十分配慮しながら、教師が 様々な工夫を行いつつ、学校における指導を充実させることが必要である。

具体的には、地域の感染状況や児童生徒・教職員の負担を勘案しつつ、<u>臨時休業期間中も登校日を設ける、学校の空き教室や社会教育施設等も最大限活用して分散登校を実施する</u>などして、学校での指導を充実させることが考えられる。また、例えば1コマを 40 分や 45 分に短くしたうえでの一日当たりの授業コマ数の増加等の時間割編成の工夫や長期休業期間の短縮、土曜日の活用、学校行事の重点化や準備時間の縮減等の様々な工夫により、学校における指導を進めることも考えられる。

その際には、学習指導通知4.に示したとおり、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業により、学校教育法施行規則に定める標準授業時数を踏まえて編成した教育課程の授業時数を下回ったことのみをもって、学校教育法施行規則に反するものとはされないとされていることも踏まえ、児童生徒や教職員の負担軽減にも配慮すること。

また、感染症対策として分散登校を行う際には、<u>進路の指導の配慮が必要な</u>最終学年(小学校第6学年・中学校第3学年等)の児童生徒が優先的に学習活動を開始できるよう配慮すること。併せて、最終学年以外の指導においては、教師による対面での学習支援が特に求められる小学校第1学年の児童にも配慮すること。

なお、高等学校等においても、<u>進学や就職を控えた高等学校第3学年の生徒等に配慮</u>するなど、生徒の発達段階や多様な学校の実態を踏まえつつ、同等の対応を検討すること。

※今後、文部科学省において人的・物的体制整備を含む取組を示す予定。

(2) 年度当初予定していた内容の指導を本年度中に終えることが困難な場合 の対応

新型コロナウイルス感染症の影響により、上記のとおり<u>各種の取組を行い</u> 学校における指導を充実したとしても、なお年度当初予定していた内容の指 導を本年度中に終えることが困難である場合には、各種の取組に加えて以下 のような特例的な対応をとることにより、子供たちの「学びの保障」を進めて いくことも考えられる。その際には以下の特例的な対応は上記の各種の取組 を行った上での補完的な取組となるよう留意すること。

① 次年度以降を見通した教育課程編成

今年度在籍している最終学年以外の児童生徒(小学校第1学年から第5学年まで、中学校第1学年・第2学年、高等学校第1学年・第2学年等)に係る教育課程に関する特例的な対応として、各学校において本年度指導を計画している内容について学年内に指導が終えられるように努めても、なお臨時休業及び分散登校の長期化などにより指導を終えることが難しい場合には、学校教育が協働的な学び合いの中で行われる特質を持つことに鑑み、学校行事等も含めた学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進めていくことが大切であること等を踏まえ、令和3年度又は令和4年度までの教育課程を見通して検討を行い、学習指導要領において指導する学年が規定されている内容を含め、次学年又は次々学年に移して教育課程を編成する。

※今後、文部科学省において上記特例的な対応を可能とするために必要な制度的措置を講じるともに、義務教育段階については、教科書発行者と協力して参考資料の提供を行う予定。

② 学校の授業における学習活動の重点化

臨時休業及び分散登校の長期化などにより学校の授業における通常の学習活動で指導を終えることが困難な場合の特例的な対応として、学習指導要領に定める内容が効果的に指導できるよう、個人でも実施可能な学習活動の一部を ICT 等を活用して授業以外の場において行うことなどにより、学校の授業において行う学習活動を、教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合いが特に重要な学習への動機付けや協働学習、学校でしか実施できない実習等に重点化する。

授業以外の場において行うこととする学習活動については、ICT の活用を含む多様な学習活動を学校の指導計画に位置付け、学習指導員の活用や地域・家庭等との連携も図ることにより、指導の充実を図り、その状況・成果を丁寧に把握する。また、内容の定着が不十分な児童生徒に対しては個別に指導を行う。

なお、児童生徒が密集して長時間活動する学習活動等、<u>感染症対策を講じてもなお感染の可能性が高い学習活動については</u>、指導順序の変更や教師による適切な事前・事後指導と授業以外の場における学習の組合せによる指導計画の立案など、各教科等の指導計画を見直し、必要な措置を講じる。

※今後、文部科学省において人的・物的体制整備を含む取組を示すとともに、 義務教育段階については、文部科学省と教科書発行者が協力し、各教科等 の留意事項や具体的な活動例等の参考資料を示す予定。

既に述べたとおり、<u>①及び</u>②の取組については、学校における指導の充実を 最大限図ったうえで、なお本年度中に予定していた内容の指導が終わらない 場合の補完的な取組であることに留意すること。

(3) ICT の活用による学びの保障

- (2) ②における ICT の活用においては、文部科学省のホームページ等で紹介している事例やコンテンツ等も参考にして学習の充実に努めること。そのためには全ての児童生徒が家庭において ICT を活用可能な環境とする必要があることから、以下の内容に取り組むこと。
 - 一人一台端末など学校における ICT 環境が十分整っている場合は、それらを全ての児童生徒が家庭でも最大限活用できるように工夫すること。
 - 学校の環境のみで全ての児童生徒の ICT 環境が対応できない場合には、 家庭や学校にあるあらゆる機器や環境を最大限活用すること。そのため に、学校において、児童生徒の家庭におけるインターネット通信等の ICT 環境を早急に把握すること。
 - そのうえで、経済的理由等でICT環境を準備できない家庭に対しては、 学校が最大限の支援を行うこと。そのために、今和元年度補正予算、令和 2年度補正予算における端末や通信機器整備支援も活用し、必要最低限 のICT環境整備を急ぐこと。なお、今和元年度補正予算による公立学校へ の端末整備については、「公立学校情報機器整備費補助金(1人1台端末 の整備)の執行について」(令和2年4月30日付け初等中等教育局情報教 育・外国語教育課事務連絡)においてお示しした通り、緊急事態宣言が出 された翌日以降に、緊急性からやむをえず契約したものについて、補助金 の対象であれば今後の交付決定において遡って補助対象とするので、速 やかに手続を進めて頂きたいこと。

(4) 教育委員会等による支援

各設置者において各学校の教育活動に対する支援を行う。また、各都道府県教育委員会、各都道府県私立学校主管部課及び小中高等学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体担当課等においても域内の設置者への支援を行う。なお、各都道府県私立学校主管部課及び小中高等学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体担当課においては、必要に応じて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条の5による学校教育に関する専門的事項についての助言又は援助等を活用し、各都道府県教育委員会等と連携すること。

※今後、文部科学省において教育課程の編成・実施に関する助言を行う取組を

進める予定。

3. 取組実施に向けた人的・物的体制の整備

2. に示す方向性に基づく取組を進めていくため、特に以下に示す事業を積 極的に活用いただくとともに、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時 交付金について」(令和2年5月7日付け初等中等教育局事務連絡)も参照さ れたいこと。また、政府においては令和2年度第2次補正予算案の編成に着手 したところであり、今後、追加の財政措置についても適宜情報提供を行ってい く予定であること。

<令和元年度補正予算>

・端末や校内通信ネットワーク等の整備(GIGA スクール構想の実現)

<令和2年度補正予算(第1号)>

- ・端末や LTE 通信機器(モバイルルータなど)等の整備(GIGA スクール構 想の加速による学びの保障)
- ・学習指導員の追加配置(補習等のための指導員等派遣事業)
- ・ 学校再開に必要な衛生関係経費の支援(学校保健特別対策事業費補助金)

4. 高等学校入学者選抜等への対応

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた高等学校入学者選抜等の実施 に当たっては、「中学校等の臨時休業の実施等を踏まえた令和3年度高等学校 入学者選抜等における配慮事項について」(令和2年5月13日付け2文科初 第 241 号初等中等教育局長通知) において示した事項に配慮して実施するこ と。

<本件連絡先>

文部科学省:03-5253-4111(代表)

- ○学習指導に関すること 初等中等教育局 教育課程課 (内2368)
- 〇人的・物的体制の整備に関すること

 - ・公立学校について 初等中等教育局 財務課 (内2587) ・私立学校について 高等教育局私学部 私学助成課 (内2547)
 - ・国立学校について 総合教育政策局 教育人材政策課(内3498)
- ○学校における保健管理に関すること 初等中等教育局 健康教育・食育課(内2918)
- OICT 環境整備に関すること 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 (内2085)
- 〇高等学校入学者選抜等に関すること 初等中等教育局 児童生徒課(内3291)

			学校の授業以外の場において行う
単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	ことが考えられる教材・学習活動
つないで、つないで、一つのお話	1	1扉の詩を読み、目次や、P6「六年生の国語の学び	
1 時間 (話・聞①)		 を見わたそう を見て、既習事項を確かめ年間の	
教科書 p. 12-13		国語学習を見通すとともに、P11「ものの考え方、	
WITE 10		伝え方」で、情報を整理して伝える言い方を使っ	
【学校での授業時数】		ていくことを確認する。	
1 時間 (話・聞 1)		2 「つないで、つないで、一つの話」の活動の目的	
1 时间(前,周17		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
		と流れを確かめる。	
		3最初と最後の一文を決め、グループで二周する間	
		に物語がつながるようにお話を作る。時間に余裕	
		があれば、「もっと楽しもう」に挑戦する。	
		4友達とお話を作ってどう感じたか、活動の振り返	
		りをする。	
春の河	1	1情景を思い浮かべながら音読する。	
小景異情		・文語調の表記や表現の工夫に着目する。	
続けてみよう		・自分が想像した情景を伝えるために、どう音読	
1時間(読①)		すればいいかを考える。	
教科書 p. 14-16		・言葉の抑揚や強弱、速さ、間の取り方などにつ	
		いて気をつける。	
【学校での授業時数】		2音読を聞き合い,互いに感じたことを伝え合う。	
1 時間 (読 1)		3学習のまとめをする。	
		・P16「続けてみよう」を読み,年間を通した継続	
		的な活動に取り組む意欲をもつ。	
1 視点のちがいに着目して読み、感想	たまレ		
帰り道	1	1 学習の見通しをもつ。	○「4」について,手引きを参考にし
4 時間 (読④)	1	・単元名とリード文を読み、自分がどんな帰り道	ながら観点を定めて感想をノート
教科書 p. 17-33		を過ごしているか、また、「律」と「周也」の帰	に書く。(※感想の交流は学校授業)
秋行 自 p. 11 00		り道にどんなことが起こるかを考え交流する。	○P33 や巻末「この本で習う漢字」を
【学校での授業時数】			活用し、新出漢字の筆順・音訓・使
3.7 時間 (読 3.7)		で「視点」の意味や使い方を押さえる。	
3. (叶间 (武 3. 1)			い方について学習する。
		・全文を読んで、「視点のちがいに着目して読み、	r-t-pp.
		感想をまとめよう」という学習課題を設定し,	【時間】
	_	学習計画を立てる。	0.3 時間 (読 0.3)
	2	2「律」と「周也」の人物像を考え、交流する。	
	\	・同じ出来事に対する登場人物の捉え方や心情に	
	3	ついて,共通点や相違点をまとめる。	
		・登場人物の心情が伝わるように音読する。	
		・二人の人物像を考え、発表し合う。	
		3「律」と「周也」の心情がどのように変化したか	
		を考え、その後の二人の関係を想像する。	
		・P31「感想を書く観点の例」を参考に,次時に感	
		想をまとめるための見通しをもつ。	
	4	4 感想を書き、交流する。	
		5 学習を振り返る。	
		・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも	
		に,「たいせつ」「いかそう」を読んで,身につ	
		けた力を押さえる。	
		・「この本、読もう」で読書へと広げ、読んだ本に	
		ついて読書記録を付ける意識をもつ。	
地域の施設を活用しよう	1	1 教科書を読み、地域で活用できる施設を探る。	※学校や地域の施設を訪れたり活用
1 時間(知・技①)		 P34-35 を読み、自分たちの地域にどんな施設が 	したりする活動を別時期に行う、も
教科書 p. 34-35		あるか、それぞれどんなときに活用できるかを	しくは、単元の学習時期を移動させ
		確かめる。	ることが考えられる。
【学校での授業時数】		2 「記録カード」例を参考に、調べて分かったこと	
1時間		の記録のしかたを知る。	
τ ∟/ lb1		・実際に、学校図書館などで何かを調べて記録カ	
	1	大阪に、ナ区凶官貼なるく門がを調べて記録ル	

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
		ードに書いてみるとよい。 3 学習のまとめをする。 ・目的に応じて地域の施設等を活用すること,調 べて分かったことを記録していくことに意欲を もつ。	
漢字の形と音・意味 2時間 (知・技②) 教科書 p. 36-37 【学校での授業時数】 1.7時間 (知・技 1.7)	2	 1同じ部分をもつ漢字には、音も共通する場合があることを理解する。 ・P36の設問 1 に取り組む。 2同じ部分をもつ漢字には、意味のうえでつながりがある場合があることを理解する。 ・P37の設問 2 に取り組む。 3 学習のまとめをする。 ・形・音・意味に着目して、漢字を読んだり書いたりすることにいかそうとする意識をもつ。 	○「2」について、下線部は教科書の 学習課題を把握して、設問に取り組 む。(※正答の確認は学校授業) ○P37 や巻末「この本で習う漢字」を 活用し、新出漢字の筆順・音訓・使 い方について学習する。 【時間】 0.3 時間 (知・技 0.3)
春のいぶき 2時間(書②) 教科書 p. 38-39 【学校での授業時数】 1.5時間(書 1.5)	1	 1 「春のいぶき」という言葉からイメージするものを発表する。 ・身の回りで感じた「春」を交流する。 ・教科書で示されている二十四節気,短歌,俳句を声に出して読む。 2 自分の地域で感じる「春」を俳句や短歌の形式に表して書く。 ・俳句や短歌の形式や決まりを確かめる。 ・自分の感じる春が表れるような言葉を選んで作る。 3 書いた作品をグループで読み合う。 ・語感や言葉の使い方,選び方など,表現の工夫に着目して感想を伝え合う。 	○「2」について,「1」で交流したことを基に,既習の学習経験をいかして取り組む。【時間】○.5時間(書0.5)
聞いて、考えを深めよう 6時間(話・聞⑥) 教科書 p. 40-43 【学校での授業時数】 5時間(話・聞5)	1 2 3 4 5 6	1学習の見通しをもつ。 ・話の聞き方や、聞いて自分の考えが変わることについて、P7「五年生の学びを確かめよう」などを用いて振り返る。 ・「話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2話題を確かめ、自分の考えを整理する。 ・P41 の例を参考に話題を決め、賛成・反対の立場をはっきりさせて、具体的な理由を挙げながら考える。 3話題について、友達から聞きたいことを考える。・P41「話を聞くときの観点」を参考に、自分の考えを深めるために、友達からどんなことを聞きたいかを明らかにしておく。 4 グループで考えを聞き合う。 ・つなぎ言葉や文末表現、意見と理由、事例とのつながりに気をつけて聞く。 5 出た意見をもとに自分の考えを深め、グループで交流する。 6 話を聞くときに大事なことについてまとめ、学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。	 ○「2」について、話題に対する自分の考えとその理由を明らかにし、ノートに整理する。(※話題は学校授業で決定しておく。) ○P43 や巻末「この本で習う漢字」を活用し、新出漢字の筆順・音訓・使い方について学習する。 【時間】 1時間(話・聞1)

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
<u>漢字の広場①</u>	1	1 教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっている	○教科書を読んで学習課題を把握し、
1時間(書①)		出来事を想像する。	活動に取り組む。
教科書 p. 44		2 提示された言葉を使い、5 年生までに習った漢字	
WII 6 11		を正しく用いて、例にならってそれぞれの出来事	【時間】
【学校での授業時数】		を伝える文を書く。	1時間(書1)
0時間		で払んの人を育く。	1 时间(盲 1)
2 筆者の主張や意図をとらえ、自然	分の考えを	発表しよう	
 笑うから楽しい	1	1学習の見通しをもつ。	○「4」について、手引きを参考にし
時計の時間と心の時間	}	・単元名とリード文を読み、「筆者の主張や意図を	ながら、自分の考えとその理由や具
【情報】主張と事例	2	捉え、自分の考えを発表しよう」という学習課	体例を明らかにしてノートに書く。
7時間(知・技①, 読⑥)		題を確認し、学習計画を話し合う。	(※考えのまとめ方については、学
教科書 p. 45-57		2「笑うから楽しい」を、語句の意味を確かめなが	校授業で確認しておく。)
Diffe by 10 of		ら読む。	○P57 や巻末「この本で習う漢字」を
【学校での授業時数】		・筆者の考えを捉え、事例を挙げることの効果と	
			活用し、新出漢字の筆順・音訓・使
5 時間(知・技 1, 読 5)		その有効性について考える。	い方について学習する。
		・この文章に対する自分の考えをまとめる。	
	3	3 「時計の時間と心の時間」を読む。	【時間】
	>	・P54 下段「言葉に着目する」を参考に内容を捉	1 時間 (読 1)
	5	え、筆者の主張や文章全体の構成についてまと	
		める。	
		・P54 下段「話し合いの例」を参考に,筆者の主	
		張と複数の事例との関係に着目して、論の進め	
		方の意図について話し合う。	
		4筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。	
		・P55「発表の例」を参考に,筆者の主張に共感・	
		納得したり、疑問に思ったりしたことや、自分	
		が体験したことを重ねて、ノートに考えを書く。	
	6	5考えを発表し合い、学習を振り返る。	
		・筆者の考えに対する意見を聞き合い、感想を交	
		流する。	
		・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも	
		に、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につ	
		けた力を押さえる。	
		・「この本、読もう」で関連する本の読書意欲を高	
		める。	
	7	6 P57「主張と事例」を読み、主張と事例の関係を理	
		解する。	
		・例を参考に、主張と事例の関係をふまえながら	
		自分の考えを話す。	
話し言葉と書き言葉	1	1 教科書の例文を読み、話し言葉と書き言葉の特徴	
1 時間(知・技①)		について、経験の中で気づいたことを交流する。	
教科書 p. 58-59		2話し言葉と書き言葉の違いについて整理する。	
		3相手や場面などによる違いについて話し合い,学	
【学校での授業時数】		習を振り返る。	
1 時間 (知・技 1)		・P59 1 の設問や「いかそう」について考え, グル	
		ープで話し合う。	
 たのしみは	1	1学習の見通しをもつ。	0
3時間(書③)	1	・学習課題として、「言葉を選んで、短歌を作ろう」	7
数科書 p. 60−63		を設定し、学習計画を立てる。	
坎川 目 p. 00 00			本年度、
【学技术の技術は整】		2 短歌にしたい場面を決める。	. ,
【学校での授業時数】		・P61 の短歌二首を読み、内容の大体を理解する。	7月20日(従来の夏休み期間
2. 2 時間(書 2. 2)		・自分の中の「たのしみ」を想起し、心に残っ	■ 前)は、このあたりまで終了し
		いることを言葉に書き表す。	ている。
	2	3言葉を選び、表現の工夫を考えながら短歌を作る。	
		・短歌のリズムや決まりを確かめる。	
		・言葉を入れ替えたり、語順を変えたりするなど	

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
		表現の工夫をする。	【時間】
	3	4 短歌を短冊に書き、グループで読み合う。	0.8時間(書0.8)
		・題材や表現のしかた、言葉の使い方に着目して	
		感想を伝え合う。	
		5 学習を振り返る。	
		・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも	
		に,「たいせつ」「いかそう」を読んで,身につ	
		けた力を押さえる。	
文の組み立て	1	1 教科書で示されたカードを並べ替えて文を作り、	
2時間(知・技②)	>	友達のものと見比べる。	
教科書 p. 64-65	2	・日本語の文の語順について確かめる。	
		2 例文を読み、文中の主語と述語、修飾と被修飾の	
【学校での授業時数】		関係を捉える。	
2 時間 (知・技 2)		・主語と述語の関係が複数ある文は、指示語を補	
		うなどして短い文に分けて書き直せることを確	
		かめる。	
		3P65の設問について考え、友達と話し合う。	
		4 学習を振り返る。	
		・「いかそう」を読み、文の組み立て方について理	
		解が深められたか確認する。	
天地の文	1	1 教材文を音読する。	○「2」について、繰り返し音読を行
1 時間 (知・技①)	1	2大意を参考に内容の大体を捉え、繰り返し音読す	う。 P66 の二次元コードの利用が
教科書 p. 66-67		る。	可能であれば、その朗読音声を参照
秋石 自 p. 00 01		・時間や週日など、暮らしの基本となる決め事に	することも考えられる。
【学校での授業時数】		ついて書かれていることを確かめる。	りることもみたりれる。
0.7時間(知・技 0.7)		3筆者の考えについて、感想を発表し合う。	【時間】
0. 7 时间(AP 1文 0. 1)		3 単年の考えに がく、 恋恋を光衣し百万。	0.3時間(知・技 0.3)
【情報】情報と情報をつなげて伝える	1	1情報を整理して伝えることについて理解する。	0. 5 M/[F] (AH 12 0. 5)
とき	}	・P68 を読み、身近な例を取り上げて、情報と情	
2時間(書②)	2	報にはどのような関係があるか、またその関係	
教科書 p. 68-69		をどう整理して伝えるかを知る。	
我们自 p. 00 00		2例文を使って、情報と情報をどうつなげて伝えれ	
【学校での授業時数】		ばよいのかを考える。	
2 時間 (書 2)		・P69 の設問に沿って,集めた情報がどのような	
7 H/J (EL 2)		関係にあるのか、また、どのようにつなげると	
		文意が伝わるのかを考え、書き表す。	
		・書いたものを交流して、情報と情報をつなげて	
		伝えるときに大事なことをまとめる。	
		3学習を振り返る。	
		・「いかそう」を読み、書くときだけでなく、文章	
		を読むときにも、情報と情報の関係に着目する	
		とよいことを確認する。	
<i>もしたしつ</i> キュー し	-1		○「9」 たんいて で始かけ 細 ッ゚₺
私たちにできること	1	1学習の見通しをもつ。	○「2」について、下線部は、調べた
10 時間(書⑩)	}	・「具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を	ことをノートにまとめたり、現状・
教科書 p. 70−75	2	書こう」という学習課題を設定し、学習計画を	問題点・解決策を個人で考えたりす
【尚拉云の極拳叶坐】		立てる。	る学習を行う。
【学校での授業時数】		・P70-71 を読み、身の回りで自分たちが取り組め	○「5」について、分担が決まったら ************************************
8 時間(書 8)		そうなテーマについて考える。	教科書の例を参考に下書きを書く。
	3	2提案文を書くための資料を集める。	○P75 や巻末「この本で習う漢字」をび出り、 び出港庁の位置、 本部 は
	· ·	・テーマに応じて、学校図書館やインターネット	活用し、新出漢字の筆順・音訓・使
	5	で調べたり、インタビューをしたりして情報を	い方について学習する。
		収集する。	※「2」の資料集めにあたって、学級
		3 グループで、問題点や解決策など具体的な事例を	外でのインタビューや学校施設の
		取り上げながら、提案内容について話し合う。	利用を行うことも想定されるため、
	6	4 提案文の構成を考える。	適切な時期に移動させることが考

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
	9 ? 10	 ・提案のきっかけや内容の骨子を確認しながら文章の組み立てを考える。 ・P68「情報と情報をつなげて伝えるとき」を参考に、情報どうしの関係に気を配る。 5グループで提案文の下書きをする。 ・「提案するときに使う言葉」を参考に、内容のまとまりごとに分担するなどして書く。 6下書きをグループで検討して清書する。 ・P74の作例を参考に、内容や書き表し方の工夫について、意見を出し合って推敲する。 7書いた提案文を他のグループと交流する。 ・分かりやすい、説得力がある書き方だと感じた部分を伝え合う。 8学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。 	えられる。 【時間】 2時間 (書2)
夏のさかり 2時間(書②) 教科書 p. 76-77 【学校での授業時数】 1.5時間(書 1.5)	2	 1「夏のさかり」という言葉からイメージするものを発表する。 ・身近で感じた「夏」を伝え合う。 ・教科書で示されている二十四節気の言葉や解説、短歌や俳句を音読する。 2自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書く。 3書いた手紙を友達と読み合い、よさを共有する。 ・言葉の選び方や書き表し方など、表現に着目して感想や助言を伝え合う。 	○「2」について,「1」で交流した ことを基に,既習の学習経験をいか して取り組む。 【時間】 0.5時間(書0.5)
私と本 森へ 5時間(読⑤) 教科書 p. 78-91 【学校での授業時数】 4.5時間(読4.5)	1 2 2 3 3	1「学習の進め方」を確認して「自分と本との関わりをふまえて、本を紹介し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2自分と本との関わりを考える。 ・P79を参考に、読書記録などをもとに読書生活を振り返る。 3特に心に残っていた本や、その本がもつテーマについて交流する。 4これから読んでみたい本のテーマを考える。・P81やP265「本の世界を広げよう」を参考に読む本を決め、並行読書を始めてもよい。 5「森へ」を読み、P82を参考にブックトークの手順を確かめる。・「森へ」で心に残ったことを交流する。 6自分で考えたテーマに沿って、紹介したい本を決め、ブックトークをする。・印象に残っている本を再読したり、新たに選んだ本を読んだりして、紹介のしかたを考える。・グループでブックトークをし、本の魅力を伝え合う。 7学習を振り返る。・「たいせつ」を読み、今後の自分と本の関わりや読書することのよさについて考える。	 ○「6」について、下線部は教科書の例を参考に、ブックトークの準備を行う。 ○P91 や巻末「この本で習う漢字」を活用し、新出漢字の筆順・音訓・使い方について学習する。 ※公共図書館や学校図書館の利用がしやすい時期に移動させることも考えられる。 【時間】 0.5 時間(読 0.5)
せんねん まんねん 1時間 (読①) 教科書 p. 92-93 【学校での授業時数】 1時間 (読 1)	1	 記書することのよさについて考える。 1詩を繰り返し音読する。 2 反復や擬人法などの表現の工夫について,話し合う。 ・どのような情景が描かれているか想像し、考えを交流する。 ・表現の工夫が読み手に与える効果を考える。 	

単元名・教材名・	時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
いちばん大事なものは 2時間(話・聞②) 教科書 p. 94-95 【学校での授業時数】 2時間(話・聞 2)	短縮した場合の 4 5 {		こことを助めては、「いうなん人事ならり」	
	40.	2 时间	での互いの考えや、対話の意義について交流する。	
利用案内を読もう 3時間(読③) 教科書 p. 96-99 【学校での授業時数】 3時間(読3)		1	1利用案内や説明書、広告などから情報を得るという経験について想起する。 2 知りたい事柄に応じて、利用案内を読む。 ・P98 の資料がどのような内容や構成になっているかを確かめながら、P97 ①の設問に必要な情報を読み取る。 ・P97 ② ③ の設問に必要な情報について話し合う。 3 知りたい事柄に応じて、ウェブサイトを見る。・P97 ④ の設問に沿って話し合う。 4 紙媒体の利用案内とウェブサイトの違いや、それぞれの活用のしかたについて話し合う。 ・P98-99 の資料を比較し、その違いをまとめる。・各自がまとめたものをもとに、グループや学級全体で話し合う。 ・実際に近隣の公共図書館のウェブサイトを見て、確かめる。 5 学習を振り返る。	※広い意味での感染症対策として、公 的機関のウェブサイト等から自分 にとって必要な情報を取り出した りつなげて考えたりする学習を早 めに行うことが考えられる。
熟語の成り立ち 2時間(知・技②) 教科書 p. 100-101 【学校での授業時数】 1.5時間(知・技 1.5)		1	 1漢字二字・三字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字辞典を使って意味を調べる。 ・漢字三字の熟語のでき方の特徴を捉える。 2漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解する。 ・教科書の熟語例を使って確かめたり、知っている熟語をつなげて長い熟語を作ったりする。 3 学習を振り返る。 	 ○「1」について、下線部は教科書の 設問に沿って漢字辞典で調べる。 ○P101 や巻末「この本で習う漢字」 を活用し、新出漢字の筆順・音訓・ 使い方について学習する。 【時間】 0.5時間(知・技 0.5)
漢字の広場② 1 時間(書①) 教科書 p. 102 【学校での授業時数】 0 時間 3 作品の世界をとらえ、	白公の孝 > +	1 = 5	1 教科書の絵を見て、遊園地での人々の行動を想像する。2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字のもつ意味を考えながら、同音異義語などに注意して正しく使い、例にならって遊園地での人々の行動を文章に書く。	通常の場合(休校もなく4月からスタートした場合)、 7月20日(従来の夏休み期間前)は、このあたりまで終了している。
************************************		書こう 1	1学習の見通しをもつ。 ・P103で題名や写真から物語を想像する。 ・これまでの物語の学習を P9-10「五年生の学びを確かめよう」で振り返り、「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」という学習課題を設定して、P124-125を参考に学習計画を立てる。 2「やまなし」の世界を捉える。	○「2」について、下線部は作品に出てくるものやそれらが描かれている様子に着目して、位置関係が分かるようにノートに描く。(※描いたものの交流は学校授業) ○「4」について、手引きを参考にして、本文の叙述を使って文章にまと

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
	3	 ・「やまなし」を読み、二枚の青い幻灯に描かれた 谷川の様子を簡単な絵や図で表す。 ・資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の 生き方や考え方について感想を伝え合う。 3「やまなし」を読み深める。 	める。 ○P127 や巻末「この本で習う漢字」 を活用し,新出漢字の筆順・音訓・ 使い方について学習する。
	6	 ・心を引かれる表現に線を引き、「五月」「十二月」の情景を対比しながら想像する。 ・作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。 4作者が作品に込めた思いや考えについて、自分の考えをまとめる。 	【時間】 1.3時間(読 1.3)
	7	 5書いたものをグループで読み、感想を交流する。 ・友達の考えと似ているところや、違うけれども納得したところなどを伝え合う。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を確認する。 ・「この本、読もう」で読書を広げる観点を確かめる。 	
=# o * #.		るとともに、二次元コードを活用して読書への 意欲をもつ。	
言葉の変化 2 時間 (知・技②) 教科書 p. 128-129 【学校での授業時数】 2 時間 (知・技 2) 秋深し 2 時間 (書②) 教科書 p. 130-131 【学校での授業時数】 1.5 時間 (書 1.5)	1 2 1 2	1時代による言葉の違いがあることを知り、自分の身の回りから例を探して交流する。 2世代による言葉の違いがあることを知り、例を探して交流する。 ・P129①の設問に提示された言葉について、違う言い方を調べる。 3学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、誰にでも分かりやすい言葉とはどういうものかを確かめる。 1「秋」を感じる言葉を出し合う。 ・二十四節気の「秋」を示す言葉の意味を、解説を読んで確かめる。 ・教科書の短歌や俳句を声に出して読み、おおまかな意味を捉える。 2「秋」をテーマに俳句や短歌を作る。	○「2」について,「1」で交流した ことを基に,既習の学習経験をいか して取り組む。【時間】0.5時間(書0.5)
		・俳句や短歌の決まりを確認する。 ・自分の地域で見つけた「秋」が表れるような言葉を選んで作る。 3 創作した俳句や短歌を交流し、学習を振り返る。 ・「秋」を感じる表現のしかたに着目して、助言や感想を伝え合う。	
みんなで楽しく過ごすために 【コラム】伝えにくいことを伝える 6時間(話・聞⑥) 教科書 p. 132-139 【学校での授業時数】	1	1学習の見通しをもつ ・これまでに行ってきた話し合いを想起し、話し合いのしかたについての知識を出し合う。 ・「目的や条件に応じて、計画的に話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	○「4」について、議題に沿って自分の主張とそれに合う理由・根拠をノートに書きまとめる。 ○P139 や巻末「この本で習う漢字」を活用し、新出漢字の筆順・音訓・使い方について学習する。
5.5 時間 (話・聞 5.5)	2	 2議題を確かめ、目的や条件をはっきりさせる。 3司会や記録係などの役割をグループごとに決めて、話し合いの進行計画を立てる。 4目的や条件に合わせて、自分の考えを明確にする。・主張や理由、根拠が明確になるよう、図や表で整理する。 5進行計画に沿って、グループで話し合う。 	使いがについて学習する。 【時間】 0.5時間(話・聞 0.5)
	?	・話し合いの目的や、それぞれの考えの共通点・	

単元名・教材名	・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
		5	相違点、利点・問題点などを明確にする。 ・計画に沿って、考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いのしかたを使い分ける。 ・話し合いの過程を視覚的に共有できるように、P135「記録用紙の例」や、P254「考えを図で表そう」を参考に、図や表を使って記録する。 ・話し合いで決まった仮の結論を実際に試してみて、改善点などについてさらに話し合う。 6 意見の伝え方について考える。 ・P138-139「伝えにくいことを伝える」を読み、それぞれの場面について、表情や口調、表現のしかたなどについて考える。 7 話し合った結果や感想をクラス全体で共有し、学習を振り返る。 ・目的や条件に応じて話し合うこと、計画的に話とについて、大事なことを振り返る。	
	短縮した場合		こまでの とろう」で単元の学びを振り返るととも	
漢字の広場③ 1 時間 (書①) 教科書 p. 140 【学校での授業時数】		1	1 教科書の絵を見て、主人公や登場人物の行動から、作家になったつもりでストーリーを考える。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を、意味を考えながら正しく用いて、例文を参考に絵に合った物語を書く。	○教科書を読んで学習課題を把握し、 活動に取り組む。 【時間】 1 時間(書 1)
0 時間				
4 表現の工夫をとらえ	て読み、それをし			
『鳥獣戯画』を読む 【情報】調べた情報の月日本文化を発信しよう 11 時間 (知・技①,書 教科書 p. 141-157 【学校での授業時数】 9.7時間 (知・技1,書	⑤,読⑤)	1 2 \(\lambda\) 4 5 \(\lambda\) 6	 ・P141で、教材名やリード文から『鳥獣戯画』や日本文化に対するイメージを広げる。 ・P8-10「五年生の学びを確かめよう」やP56でこれまでの学習を振り返り、「筆者のものの見方や表現の工夫を捉え、それをいかして日本の文化について説明しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2「『鳥獣戯画』を読む」を、絵と文章を照らし合わせながら読み、内容を捉える。 3筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について気づいたことをまとめる。 ・「絵」と「絵巻物」に対する筆者の評価が分かる表現を押さえる。 ・論の展開、表現の工夫、絵の示し方という点から、筆者の工夫について考える。 4学校図書館などを利用して日本文化について書かれた本を読み、表現の工夫について交流する。 ・説明のしかたや評価の述べ方、写真や絵の使い方などで、自分が真似したいことを書き出す。 ・書き出したことをもとに、グループで交流する。・「たいせつ」を読み、筆者の考えと表現の工夫について学んだことを振り返る。 5グループで題材を決め、どんなパンフレットを作るか構想を練る。 6決めた題材について詳しく調べる。・P152を参考に、引用のしかたや出典の示し方、著作権の尊重について確かめる。 7パンフレットの目的に応じてその構成を決め、役割分担をする。 	○「4」について、下線部は自分で選んだ本から表現の工夫を見つけてノートにまとめる。 ○「8」について、分担に沿って割り付けを考え、下書きを書く。(※書いた下書きをグループで読み合って相互批正を行うなど、交流活動は学校授業) ○P157 や巻末「この本で習う漢字」を活用し、新出漢字の筆順・音訓・使い方について学習する。 ※調べ学習にあたって、実際に学校外施設等の見学を行うことも想定されるため、適切な時期に移動させることが考えられる。 【時間】 1.3時間(書 0.8、読 0.5)

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
	11	8割り付けを決め、下書きを書く。 ・P155を参考に、割り付けや下書きのしかたを考える。 ・書いた下書きをグループで読み合い、話し合って記事の内容や表現を検討する。 9清書し、パンフレットを完成させる。 10各グループのパンフレットに対する感想を伝え合い、学習を振り返る。 ・工夫されていると感じた表現や、絵・写真の使い方、今後にいかしたいことなどを伝え合う。・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を	
古典芸能の世界——演じて伝える 1 時間 (知・技①) 教科書 p. 158-159 【学校での授業時数】 0. 7 時間 (知・技 0. 7)	1	押さえる。 1 教科書で紹介されている古典芸能についての理解を深める。 ・児童になかなか馴染みがない場合など、必要に 応じて、デジタル教材や二次元コードの資料を 利用する。 2 さらに知りたくなったことや、見てみたいと思っ	○「1」について、下線部は二次元コードの利用が可能であれば、資料を視聴して理解を深める。 【時間】 0.3時間(知・技 0.3)
カンジー博士の漢字学習の秘伝 2 時間(知・技②) 教科書 p. 160-161 【学校での授業時数】	1 ¿ 2	たものについて交流する。 ・児童の関心に応じて、家庭学習などで調べさせてもよい。 1 漢字の学習で、困っていることや、自分なりの工夫などを出し合う。 2 漢字学習の三つの秘伝について、教科書に沿って確認する。 3 「究極の秘伝」を確かめ、P161 の設問に取り組み	
2 時間 (知・技 2) 漢字の広場④ 1 時間 (書①) 教科書 p. 162 【学校での授業時数】 0 時間	1	ながら、漢字学習の秘伝について振り返る。 1 教科書の絵を見て、テレビ局での様子や会話を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、例にならって見学したことを分かりやすく伝える文章を考えて書く。	○教科書を読んで学習課題を把握し、 活動に取り組む。【時間】1 時間(書1)
5 伝統文化を楽しもう 狂言 柿山伏 「柿山伏」について 4時間(読④) 教科書 p. 163-175 【学校での授業時数】 4時間(読4)	1 2 7 3	1学習の見通しをもつ。 ・P163で、題名やリード文、写真から狂言についてのイメージを広げる。 ・「狂言 柿山伏」の朗読CDを聞き、関心をもった点や疑問点などを交流する。 ・「狂言を楽しみ、音読しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2「狂言 柿山伏」を音読し、独特の表現と話の筋を理解する。 ・「『柿山伏』について」を読み、理解を深めるとともに、昔の人のものの見方や感じ方を知る。・狂言のおもしろさについて考える。 3グループで役割を決め、音読練習をする。・せりふに合ったふりを付けたり、演じたりしてもよい。 4音読の発表をし、学習を振り返る。 ・音読発表の感想を交流し、狂言や昔の人のものの見方・感じ方について、感じたことや考えたことをまとめる。	
大切にしたい言葉 6時間(書⑥)	1	1 学習の見通しをもつ。 ・P176 のリード文や P8「五年生の学びを確かめよ	○「4」「5」について,教科書の例を参考にしながら,下書きや清書を

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
教科書 p. 176-180		う」を読み、学習の進め方を確かめる。	行う。(※各学習のポイントの確認
		・「書き表し方を工夫して, 経験と考えを伝えよう」	や、交流活動は学校授業)
【学校での授業時数】		という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	
4.5 時間 (書 4.5)	2	2座右の銘にしたい言葉を決める。	【時間】
	>	・選んだ言葉と、それに結び付く経験を思い出し、	1.5時間 (書 1.5)
	3	友達と話す。	
		3 文章構成を考える。	
		・字数を決め、「初め・中・終わり」にそれぞれ何	
		を書くか、構成メモにまとめる。	
	4	4下書きをし、読み合って推敲する。	
	>	・詳しく書くとよいところや、自分の考えを表す	
	6	のにふさわしい言葉を吟味する。	
		5書き表し方を工夫して清書する。	
		6 読み合って感想を伝え、単元を振り返る。	
		・心を動かされた内容や表現について伝え合う。	
		「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも	
		に,「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を	
		押さえる。	
 漢字の広場⑤	1	1 教科書の絵を見て、商店街の様子や人々の会話を	○教科書を読んで学習課題を把握し、
1時間(書①)		想像する。	活動に取り組む。
教科書 p. 181		2提示された言葉を使って、5年生までに習った漢	
		字を正しく用いて、例にならって商店街の様子を	【時間】
【学校での授業時数】		表す文章を書く。	1 時間 (書 1)
0 時間		21,731,611,0	
冬のおとずれ	1	1冬のイメージを広げる。	○「2」について,「1」で交流した
2 時間 (書②)	}	・二十四節気の言葉の意味を確かめ、教科書の中	ことを基に、既習の学習経験をいか
教科書 p. 182-183	2	の短歌や俳句を音読する。	して取り組む。
4X1 a p. 102 100		・自分が「冬」を感じる言葉を考える。	
【学校での授業時数】		2 自分が住む地域の「冬」の様子を手紙に書く。	【時間】
1.5時間(書1.5)		3互いの手紙を読み合い、学習を振り返る。	0.5 時間 (書 0.5)
1.0 M(H) (E 1.0)		・感想を伝え合い、「冬」を感じる言葉について、	0.0 M
		認識を広げたり深めたりする。	
 詩を朗読してしょうかいしよう	1	1 教科書にある詩を朗読する。	
2 時間 (読②)	}	・詩を読み、感じたことや考えたことを交流する。	
教科書 p. 184-185	2	・どのようにすれば感じたことや考えたことが表	
秋行音 p. 104 100		現できるか、朗読のしかたを考える。	
【学技での授業味物】		,	
【学校での授業時数】 2 時間 (読 2)		2 お気に入りの詩を朗読する。 ・	
		・詩集などから、お気に入りの詩を選ぶ。・詩に描かれたことと、自分の気持ちが重なるこ	
		・詩に描かれたことと、目分の気持らか里なることについて考える。	
		とについて考える。 ・お気に入りの詩を朗読し、友達に紹介する。な	
		・わえに入りの詩を朗読し、及達に紹介する。 なぜその詩を選んだのか、理由も述べる。	
仮名の中央	1		
仮名の由来 1 時間 (知・技①)	1	1仮名の由来を知り、日常的に使う文字に対する理 解と関心を深める	
		解と関心を深める。	
教科書 p. 186-188		・身の回りの仮名について想起する。	
「出たるのでまけます		・P188の一覧を見ながら、万葉仮名から平仮名・	
【学校での授業時数】		片仮名への変化について理解する。	
1時間(知・技1)	+ 1	・「いかそう」を読み、学習を振り返る。	
6 筆者の考えを読み取り、社会と生き	Γ		0.54.05.00.00.00.00.00.00.00.00
メディアと人間社会	1	1学習の見通しをもつ。	○「4」について、教材文を引用する
大切な人と深くつながるために		・P189 で、題名やリード文から、これから読む文	などして考えをノートにまとめる。
【資料】プログラミングで未来を創る		章の内容や考えていくことをイメージする。	(※「プログラミングで未来を創
6時間(読⑥)		・「これまでの学習」を参考にしながら、説明的な	る」を読むことと、自分の意見のま
教科書 p. 189-200		文章を読んで自分の考えをもつという学習経験	とめ方の確認は、先に学校授業で行
F.W.I.L 1		を振り返り、「筆者の考えを読み取り、社会と生	っておくとよい。)
【学校での授業時数】		き方について話し合おう」という学習課題を設	○P198 や巻末「この本で習う漢字」

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
5.5 時間(読 5.5)	2 / 3 4 4	定し、学習計画を立てる。 2 「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」の要旨を捉える。 ・二つの教材文を読み、これからの社会を生きていくという観点から感想を交流する。 3 二つの教材文を比べて読む。 ・論の展開や構成の工夫、事例の挙げ方、表現の特徴に着目する。 ・二人の筆者の考えの共通点を考える。 ・自分の知識や経験などと比べて、気づいたことや考えたことを書き出す。 4 「これからの社会でどう生きていくか」というこ	ことが考えられる教材・学習活動 を活用し、新出漢字の筆順・音訓・ 使い方について学習する。 【時間】 0.5時間 (読 0.5)
	<i>₹</i> 6	とについて、筆者の考えをふまえて自分の意見をまとめる。 ・P199-200「プログラミングで未来を創る」や、「この本、読もう」で取り上げられている本を読んで、参考にする。 5各自の意見をグループで交流する。 ・考えが広がったことについて、学級全体でも共有し、感想を伝え合う。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
漢字を正しく使えるように 【コラム】覚えておきたい言葉 2時間 (知・技②) 教科書 p. 201-203 【学校での授業時数】 1時間 (知・技 1)	1	1「同じ読み方をする漢字」について,適切な字を選択する方法を知る。2学んだ方法に従って,設問の平仮名を漢字に変換したり,間違いを直したりする。3「覚えておきたい言葉」に出てくる言葉について,辞書を引いて意味を確認したり,漢字を書いたりする。	○「2」について、教科書の設問に沿ってノートに漢字で正しく書く。 (※解答の確認は、学校授業) ○「3」について、言葉の意味調べをしたり、その言葉を使った短文をノートに書いたりする。(※交流は学校授業) ○P203 や巻末「この本で習う漢字」を活用し、新出漢字の筆順・音訓・使い方について学習する。
			【時間】 1時間 (知・技 1)
人を引きつける表現 3時間(知・技①, 書②)	1 ?	1日常生活の中で目にする「人を引きつける表現」 を想起する。	I ry [R] (AH JX I/
教科書 p. 204-207 【学校での授業時数】 2 時間 (知・技 1,書 1)	2	 2 教材文を読み、さまざまな表現の工夫があることを捉える。 3 気に入った表現について説明する文章を書く。 ・教科書にある物語や詩、文章から、心が引かれる表現を見つけて書き写す。 ・選んだ表現について、どのような工夫や効果があり、自分がどう感じるのかを書く。 	通常(休校もなく4月からスタートした場合) も、 本年度の場合も、12月頃に このあたりまで終了する。
思い出を言葉に	3	4書いた文章を交流し、学習を振り返る。 1学習の見通しをもつ。	○「2」について、下線部は友達と交
7 時間(書⑦) 教科書 p. 208-211 【学校での授業時数】 5 時間(書5)		・6年間で最も印象に残った出来事について話し合う。 ・これまでの「書くこと」の学習で身につけてきたことを振り返り、「伝えたい思いを明確にして書こう」という学習課題を設定し、学習計画を	流するなどして詳しく思い出した 出来事の中から、今の自分に最も意味や価値のあるものを選んでノートに書き出す。(※考えの交流や助言は学校授業)
	2	立てる。 2 伝えたいことを明確にする。 ・印象に残っている出来事を詳しく思い出し、自	○「3」について,下線部は教科書の 例を参考にしながら表現の効果を 考えて仕上げる。(相談や助言は学

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
	5 7	分にとっての意味や価値などを考えて、伝えたいことを書き出す。 ・書き出したことの中から、何を中心に取り上げるのかを考える。 3形式を決め、表現を工夫して書く。 ・P204「人を引きつける表現」や、P307「言葉の宝箱」を参考にして表現を選び、作品として仕上げる。 ・誤字等がないか、声に出して読むなどして確かめ、推敲する。 4作品を読み合って感想を交流し、学習を振り返る。・どの表現からどのような思いが伝わったか、感想を伝え合い、自分の作品のよさを見つける。	校授業) ○P211 や巻末「この本で習う漢字」 を活用し、新出漢字の筆順・音訓・ 使い方について学習する。 【時間】 2 時間 (書 2)
今、私は、ぼくは 6時間(話・聞⑥) 教科書 p. 212-215 【学校での授業時数】 5. 2 時間(話・聞 5. 2)	1	・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 1学習の見通しをもつ。 ・「将来どんな自分でありたいか」について意見を出し合う。 ・P7「五年生の学びを確かめよう」などで、これまでの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返り、「資料を使って、効果的なスピーチをしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	○「3」について、教科書の例を参考 にしながらスピーチメモをまとめ る。(※一人で完成させるのではな く、学校授業で交流しながら改善し ていく。二次元コードの動画資料を 参考にすることも考えられる。) ○P215 や巻末「この本で習う漢字」
	2	 2スピーチの話題を決め、内容を整理する。 ・将来の夢とそう思うようになったきっかけや、そのときに感じたことを書き出し整理する。 3構成を考えて、スピーチメモを作る。 ・P213「矢島さんのスピーチメモ」を参考に、「初め・中・終わり」の大体の内容を考える。 4発表に必要な資料を準備する。 ・聞き手に合わせて情報をしぼり、図表等を積極的に用いて提示資料を作る。 ・P264「デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう」を参考にしてもよい。 5スピーチの練習をする。 ・使う言葉や話し方、資料の見せ方など、工夫したいことをスピーチメモに書き込む。 	を活用し、新出漢字の筆順・音訓・ 使い方について学習する。 【時間】 0.8時間(話・聞 0.8)
	6	6スピーチの会を開いて交流し、単元を振り返る。・友達のスピーチを聞いて、感じたことや考えたことを伝え合う。・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
漢字の広場⑥ 1 時間 (書①) 教科書 p. 216	1	1教科書の絵を見て、いつ、どこで、どんなことが あったのか、学校の場面の様子を想像する。2提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字 を正しく用いて、例にならって文章を書く。	○教科書を読んで学習課題を把握し、 活動に取り組む。【時間】
【学校での授業時数】 0時間	٠ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ ـ		1 時間 (書 1)
7 登場人物の関係をとらえ、人物の生	T		
海の命 6 時間 (読⑥) 教科書 p. 217-232	1	1学習の見通しをもつ。 ・P217で,題名やリード文,挿絵から物語の内容を想像する。 ・全文を通読し,心に残ったところや疑問に思っ	○「4」について、これまでの学習や 友達の発言などを基に、自分の考え とその根拠をノートにまとめる。 ○P232 や巻末「この本で習う漢字」
【学校での授業時数】 5.3 時間 (読 5.3)		たところなどを交流する。 ・「これまでの学習」を参考に、これまでの文学的	を活用し、新出漢字の筆順・音訓・ 使い方について学習する。

単元名・教材名・時数	時	主な学習活動	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
		な文章の学習を振り返り,「登場人物の関係を捉	
		え,人物の生き方について話し合おう」という	【時間】
		学習課題を設定し、学習計画を立てる。	0.7 時間 (読 0.7)
	2	2物語の設定を確かめ、構成と内容を捉える。	
	₹	・「太一」と他の登場人物との関係を, 行動や会話,	
	4	情景に着目してまとめる。	
		3物語の山場を読み深める。	
		・「瀬の主」と対峙したときの「太一」の心情やそ	
		の変化を考える。	
		・「太一」が「瀬の主」を殺さなかった理由や,「海	
		の命」が表すものについて、考えを交流する。	
	5	4 それぞれの登場人物の生き方について考え、それ	
	₹	に対する自分の考えをまとめる。	
	6	5登場人物の生き方について考えたことを, グルー	
		プで話し合い、学習を振り返る。	
		・他者の考えにふれて考えが広がったことや、初	
		めて読んだときに感じたことと学習後の自分の	
		考えの変容を意識しながら学習感想を書く。	
		・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも	
		に,「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を	
		押さえる。	
		・「この本、読もう」で、読書への意欲をもたせる。	
卒業するみなさんへ	•		
中学校へつなげよう	1	1 学習の見通しをもつ。	
生きる		・P233 で,教材名やリード文から,単元で考えて	
今,あなたに考えてほしいこと		いくことをイメージする。	
4 時間 (読④)		2「中学校へつなげよう」で、6年間の国語学習を	
教科書 p. 233-246		振り返り、身につけた言葉の力を整理する。	
	2	3「生きる」「今,あなたに考えてほしいこと」を読	
【学校での授業時数】		み、それぞれのメッセージとその共通点を考える。	
4 時間 (読 4)	3	4 それぞれの作品を読んで感じたことや、自分がこ	
	>	れからどう生きていきたいかについて考えを交流	
	4	する。	
		・「生きる」は、朗読を取り入れるとよい。	
		5 改めて6年間の国語学習を振り返り、これからの	
		生活や学習に向けて取り組んでいきたいことを考	
		え,本単元をまとめる。	

合計145時間

短縮120.7時間

中学校 数学3

年間指導計画案

本資料は、令和2年度用教科書「中学校数学3」において、学校での授業と学校の 授業以外の場で取り組む学習活動を併用して指導される場合の年間指導計画案を示 したものです。

学校の授業以外の場で取り組む学習活動をできるだけ多く行う場合を想定して示した一例です。地域や学校の状況に合わせて,適宜,変更してご活用ください。

学校図書株式会社

年間指導計画案 第3学年

1章 式の計算(20)

学校の授業以外の場の時数 (3.5)

学習指導要領 容A(2)

- ① 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式でわる除法の計算をすることができる。
- ② 簡単な1次式の乗法の計算及び公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。
- ③ 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。

節 • 項	時数	学習内容	用語・記号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
章の扉 p.12-13	1	●積の回文を基にして,多項式どうしの 乗法について考える。			
1 多項式の計算	6				
1 式の乗法・除法	1	●単項式と多項式の乗法を理解する。 ●多項式を単項式でわる除法を理解す			
p.14-15		る。			
2 式の展開 p.16-17	1	●分配法則を使って、多項式どうしの乗 法の計算をする。 ●式の展開の意味を理解する。	展開		
3 乗法公式	3.5	●乗法公式を理解し、それらを用いて式を展開する。●乗法公式を使って、いろいろな計算を	乗法公式		
p.18-22		する。			
確かめよう p.23	0.5			「確かめよう」「計算力を高めよう」は、学校の授業以外の場で取り組むことができ	0.5
◇計算力を高めよう① p. 24				る。ノートを確認し,達成度を把握する。	
2 因数分解	7				
1 素因数分解	1	●因数,素因数,素因数分解の意味を理解する。●素数以外の自然数は、素数の積で表せ	素因数		
p.25-26		ることを理解する。	示凶 级万件		
2 因数分解	2	●多項式の因数及び因数分解の意味を理解する。 ●共通な因数をかっこの外にくくり出し	因数 因数分解		
p.27-29		て多項式を因数分解する。			
3 公式による因数分 解	3.5	●乗法公式を逆に使って、多項式を因数 分解する。			
p.30-33		●やや複雑な多項式を因数分解する。			
確かめよう p.34	0.5			「確かめよう」「計算力を高めよう」は、学校の授業以外の場で取り組むことができ	0.5
◇計算力を高めよう②p.35				る。ノートを確認し、達成度を把握する。	
3 式 の利用 1 式の利用 p.36-40	4 3	●整数や図形の性質を調べ、式の計算を 利用して、それらを証明する。			
確かめよう p.40	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で 取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	1
1章のまとめの問題 p.41-43	2			まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学校の授業以外の場で取り組むことができる。学校の授業では、達成度等を確認する時間を設ける。	1.5
☆乗法の計算を見直そ う		●式の計算を活用して,小学校で学習した 2 桁の整数どうしの乗法の計算を捉			
p.44-45		え直す。			

- ① 数の平方根の必要性と意味を理解することができる。
- ② 数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。
- ③ 有理数と無理数の意味及び数の集合について理解することができる。
- ④ 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。

節·項	時数	学習内容	用語・記号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
章の扉 p.46-47	1	●方眼上の正方形の1辺の長さを調べる 活動を通して、「2乗すると2になる数」 などの存在に気付く。			
1 平方根 1 平方根 p.48-50	5 2	●逐次近似的に平方根の近似値を求める。●平方根の必要性に気付き、平方根の意味を理解する。●平方根は根号を使って表せること及びその表し方を理解する。	√,根号 平方根		
2 平方根の大小 p.51	1	●平方根の大小を比べ,不等号を使って 表す。			
3 有理数と無理数 p.52-53	1	●有理数と無理数の意味及び数の範囲の 広がりについて理解する。 ●有理数と無理数を小数で表したときの 特徴を調べる。	有理数 無理数		
確かめよう p.54	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で 取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	1
2 根号をふくむ式の計	8				
算 1 根号をふくむ式の 乗法・除法	4	●平方根の積と商のきまりを理解する。●根号を含む数を,目的に応じて変形する。●根号を含む数の乗法や除法の計算をする。●小数点の位置に着目して,平方根の近	有理化	本年度、 7月20日(従来の夏休み期間	
p.55-59 2 根号をふくむ式の 加法・減法 p.60-63	2	似値を求める。●根号の中が同じ数の和は、分配法則を使って簡単にできることを理解する。●根号を含む式の加法や減法の計算をする。●乗法公式を用いて根号を含む式の計算をする。		前) は、このあたりまで終了している。	
3 平方根の利用 p.64-65	1	●平方根を利用して, B5 判の紙の縦横比などを調べる。			
確かめよう p.66 ◇計算力を高めよう③ p.67	1			「確かめよう」「計算力を高めよう」は、学校の授業以外の場で取り組むことができる。ノートを確認し、達成度を把握する。	1
2章のまとめの問題 p.68-70	2			まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学校の授業以外の場で取り組むことができる。学校の授業では、達成度等を確認する時間を設ける。	1.5
☆丸太からとれる角材 は? p.71		●曲尺の $\sqrt{2}$ 倍の目盛りを使って、丸太からとれる角材の 1 辺の長さを求める方法を説明する。			

- ① 2次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解することができる。
- ② 因数分解したり平方の形に変形したりして2次方程式を解くことができる。
- ③ 解の公式を理解し、それを用いて2次方程式を解くことができる。
- ④ 2次方程式を具体的な場面で活用することができる。

節 • 項	時数	学習内容	用語·記号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
章の扉 p.72-73	1	●具体的な問題の考察を基にして,2次 の項を含む方程式を導く。			
1 2次方程式の解き方	10	<u>の現を百むが住れを等く。</u>			
1 2次方程式とその	2	●2次方程式及びその解の意味を理解す	2 次方程式		
解		る。	2 次方程式の		
			解 2次方程式を		
p.74-76			2 伙万怪式を 解く		
2 因数分解を使った	2	●因数分解を用いた2次方程式の解き方	7.71		
解き方		を理解し、その方法で2次方程式を解			
p.77-79	0.5				
3 平方根の考えを使った解き方	3.5	●平方根の考えを用いた 2 次方程式の解 き方を理解する。			
J 1C/1+ C/J		●平方根の考えを用いて, $(x+p)^2=q$ の			
		形の2次方程式を解く。			
		$\bullet x^2 + bx + c = 0$ の形の 2 次方程式は,			
p.80-83		$(x+p)^2=q$ の形に変形すれば解けることを理解する。			
4 2次方程式の解の	2.5	●解の公式の意味を理解する。	解の公式		
公式		●解の公式を用いて2次方程式を解く。			
p.84-87					
確かめよう 97	0.5			「確かめよう」「計算力を高めよう」は、学校の授業以外の場で取り組むことができ	0.5
p.87 ◇計算力を高めよう④				る。ノートを確認し、達成度を把握する。	
p.89				Solve T Chapter of Alline Chapter of the Chapter of	
2 2次方程式の利用	3				
1 2次方程式の利用	2.5	●2次方程式を利用して,数や図形など に関する問題を解決する。			
p.90-92 確かめよう	1	に関する问題を解伏する。		「確かめよう」は、学校の授業以外の場で	1
惟かめより	1			取り組むことができる。ノートを確認し、	1
p.92				達成度を把握する。	
3章のまとめの問題	2			まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学	1.5
				校の授業以外の場で取り組むことができる。学校の授業では、達成度等を確認す	
p.93-95				る。子校の授業では、達成及等を確認する時間を設ける。	
☆総当たり戦の試合数		●2次方程式を活用して、総当たり戦の		7,1,3 0,5(1) 0,6	
は?		試合数の問題を解決する。		\checkmark)
p.96			\	・ 通常の場合(休校もなく4月か	

通常の場合(休校もなく4月からスタートした場合)、7月20日(従来の夏休み期間前)は、このあたりまで終了している。

- ① 事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを理解することができる。
- ② 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができる。
- ③ 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え説明することができる。
- ④ いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解することができる。

節 · 項	時数	学習内容	用語・記号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
章の扉 p.98-99	1	●具体的な事象の考察を通して,2乗に 比例する関数の存在に気付く。			
1 関数 y=ax ²	13				
1 2乗に比例する関	2	●具体的な事象の変化や対応を調べるこ	yは x の 2 乗に		
数		とを通して, 2 乗に比例する関数	比例する		
		$y=ax^2$ について理解する。	比例定数		
p.100-102		●2乗に比例する関数の式を求める。			
2 関数 $y=ax^2$ のグラ	4	●関数 $y=ax^2$ のグラフをかき、その特徴			
フ		を調べる。			
		●関数 $y=ax^2$ のグラフについて、比例定			
		数 a の値と関連付けながら、共通点や			
		関係などを調べる。	放物線		
p.103-110		●関数 $y=ax^2$ のグラフを放物線と呼ぶことや、その軸や頂点の意味を理解する。	//X-1/2//pK		
3 関数 $y=ax^2$ の値の	4		最大値		
変化	4	● 関数 <i>y = ax = 0</i> / 1 0 / 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	最小値		
グ IL		$\bullet x$ の変域が指定された関数 $y=ax^2$ のグ	秋/1/10		
		ラフをかき、 γ の変域について調べる。			
		●関数 $y=ax^2$ の変化の割合を理解し、具			
		体的な場面でどんな意味をもつのかを			
p.111-116		調べる。			
4 関数 y=ax ² の利用	2	●具体的な事象の中から関数 $y=ax^2$ を			
p.117-120		見いだし、問題の解決に利用する。			
確かめよう	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で	1
				取り組むことができる。ノートを確認し、	
p.121				達成度を把握する。	
2 いろいろな関数	3				
1 身のまわりの関数	2.5	●身のまわりから、いろいろな関数関係			
		を見いだし、グラフなどを用いて特徴			
p.122-125-		を調べる。			
確かめよう	0.5			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で	0.5
p.125				取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	
4章のまとめの問題	2			達成度を花焼りる。 まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学	1.5
ナキッグにのの川旭				校の授業以外の場で取り組むことができ	1.0
				る。学校の授業では、達成度等を確認す	
p.126-128				る時間を設ける。	
☆スピードと停止距離		●関数 $y=ax^2$ を活用して,自動車の速さ			
の関係は?		と制動距離の関数を捉え説明する。			
p.129-131					

- ① 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件を理解することができる。
- ② 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。
- ③ 平行線と線分の比についての性質を見いだし、それを確かめることができる。
- ④ 基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解することができる。
- ⑤ 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。

節 · 項		時数	学習内容	用語・記号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
章の扉 p.15	34-135	1	●小学校で学んだ拡大図・縮図の考えを 基に、ピラミッドの高さを考える。			
1 相似な図形 1 相似な図形 比 p.1:	と相似 36-139	7 2	●図形の相似の意味を理解する。●相似な図形の性質や相似比について理解する。●相似な図形の性質を用いて,辺の長さを求める。	相似,∽ 相似比		
2 三角形の相4 p.14	以条件	3	●三角形の相似条件を理解する。 ●三角形の相似条件を用いて、2つの三 角形が相似であるかどうかを判断した り図形の性質を証明したりする。	相似の位置 相似の中心		
3 相似の利用 p.14	46-147	1	●縮図を用いて木の高さや2地点間の距離などを求める。			
確かめよう	p.148	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で 取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	1
2 平行線と相似 1 平行線と線タ		7 3	●平行線と線分の比の関係を理解する。●平行線と線分の比の関係を用いて線分の長さを求めたり、線分を等分したり			
-	49-154		する。			
2 線分の比と ³ p.18	平行線 55-159	3	●線分の比と平行線の関係を理解する。●中点連結定理を理解する。●中点連結定理を用いて,見いだした図形の性質を証明する。	中点連結定理		
確かめよう	p.160	0.5			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で 取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	0.5
3 相似と計量 1 相似な図形の 比 p.16	の面積 61-163	4 2	●図形の相似比と面積比の関係を理解する。●図形の相似比と面積比の関係を用いて、図形の面積を求める。			
2 相似な立体の 積比と体積り p.16		1.5	●立体の相似比と表面積比及び体積比の 関係を理解する。●立体の相似比と表面積比及び体積比の 関係を用いて,立体の表面積や体積な どを求める。	相似比		
確かめよう	p.167	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で 取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	1
5章のまとめの問題 p.16	題 68-170	2			まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学校の授業以外の場で取り組むことができる。ノートを確認し、達成度を把握する。	1.5
☆問題づくりに ⁵ ンジ!	チャレ p.171		●相似な図形の性質を活用して解くこと ができる問題づくりをする。			

- ① 観察、操作や実験を通して円周角と中心角の関係を見いだし、それが証明できることを理解することができる。
- ② 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。

	寺数	学習内容	用語・記号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
-F-12/9E	1	●サッカー場で、同じ角度でシュートの 入る地点を集めると円弧を描くことに			
p.172-173		気付く。			
	6 4	●円周角と中心角の関係を見いだし,既	円周角		
		習の三角形の性質などを基にしてそれ が証明できることを理解する。			
p.174-180		●等しい弧と円周角の関係を理解する。			
2 円周角の定理の逆 p.181-182	1	●円周角の定理の逆が成り立つことを理解する。			
1	1	ИТ) - 2 0		「確かめよう」は、学校の授業以外の場で	1
p.183				取り組むことができる。ノートを確認し, 達成度を把握する。	
2 円周角の定理の利用 3	3				
1 円周角と図形の証 : 明	1	●円周角に関する定理を利用して、図形 の性質を証明する。			
p.184-185					
2 円周角と円の接線 1	1.5	●円周角と中心角の関係を利用して、円 外の1点から円に接線を引く作図の方			
p.186-188		法を調べ、それを説明する。			
確かめよう p.188	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で 取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	1
6章のまとめの問題 p.189-191	2			まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学校の授業以外の場で取り組むことができる。学校の授業では、達成度等を確認する時間を設ける。	1.5
p.109 191 ☆船の位置を求めよう		●円周角と中心角の関係を活用して、海		الا الها (ج hX t) , م) و	
p.192-193		●日周角と中心角の関係を活用して、海 上にいる船の位置を特定する方法を説 明する。			

通常(休校もなく4月からスタートした場合) も、 本年度の場合も、12月頃にこのあたりまで終了する。

7章 三平方の定理(13)

学校の授業以外の場の時数(3)

学習指導要領 内容 B(3)

- ① 観察、操作や実験を通して三平方の定理の意味を見いだし、それが証明できることを理解することができる。
- ② 三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。

節 · 項	時数	学習内容	用語・記 号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
章の扉	1	●方眼を用いて、直角三角形の各辺を 1			
p.194-195		辺とする正方形の面積の関係を調べ る。			
1 三平方の定理	4				
1 三平方の定理	2	●三平方の定理を見いだし, それが証明	三平方の定理		
		できることを理解する。			
100 100		●三平方の定理を用いて、直角三角形の			
p.196-198 2 三平方の定理の逆	1.5	辺の長さを求める。 ●三平方の定理の逆を理解する。			
2 二十分の定差の定	1.0	●三平方の定理の逆を用いて、ある三角			
		形が直角三角形であるかどうかを判別			
p.199-200		する。			
確かめよう	0.5			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で	0.5
p.201				取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	
2 三平方の定理の利用	6			建成及で記述する。	
1 平面図形での利用	3	●三平方の定理を用いて, 平面図形のい			
		ろいろな計量を行う。			
909 907		●三平方の定理を用いて、平面上の2点			
p.202-207 2 空間図形での利用	2	間の距離を求める。 ●三平方の定理を用いて,空間図形のい			
2 主的囚办(9种)//		ろいろな計量を行う。			
		●三平方の定理を用いて, 箱にかけるひ			
p.208-212		もの最短の長さを求める。			
確かめよう	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で	1
p.213				取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	
7章のまとめの問題	2			まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学	1.5
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	_			校の授業以外の場で取り組むことができ	
24 : - : -				る。学校の授業では、達成度等を確認す	
p.214-216 ☆ビルの屋上から見渡		●ニ亚士の字冊を活用して、ビュの早し		る時間を設ける。	
せる範囲は?		●三平方の定理を活用して,ビルの屋上 や山頂から見渡せる範囲を求める。			
р.217-218					

8章 標本調査 (9) 学校の授業以外の場の時数 (2.5) 学習指導要領 内容 D(1)

章の目標

- ① 標本調査の必要性と意味を理解することができる。
- ② 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を捉え説明することができる。

節 · 項	時数	学習内容	用語・記号	学校の授業以外の場で可能と 考えられる学習活動	時数
章の扉 p.220-221	1	●身のまわりで行われている調査が、どのように行われているかを調べる。			
1 標本調査 1 全数調査と標本調 査 p.222	6 1	●標本調査の必要性と意味を理解する。	全数調查 標本調查 母集団,標本 抽出,推定		
2 標本調査による推 定 p.223-226	2	●標本調査における無作為抽出の必要性を理解する。 ●標本の大きさと標本平均の信頼性の関係を理解する。	無作為に抽出 する, 乱数 標本平均		
3 標本調査の利用 p. 227-229	2	●簡単な場合について標本調査を行い, 母集団の傾向を捉え説明する。			
確かめよう p.230	1			「確かめよう」は、学校の授業以外の場で 取り組むことができる。ノートを確認し、 達成度を把握する。	1
8章のまとめの問題 p.231-232	2			まとめの問題「基本」「応用」「活用」は、学校の授業以外の場で取り組むことができる。学校の授業では、達成度等を確認する時間を設ける。	1.5
☆はずれた予想 p.233		●標本調査の結果と実際の結果がなぜ違ったのか、その理由を考える。			

<u>合計 140 時間 (126 時間 (内学校の授業以外の場 26 時間) + 予備 14 時間)</u>